



清吟堂吟友会

出雲ブロック会報

発行 清吟堂吟友会出雲ブロック 広報部 第22号

平成30年5月1日

信 条

- 詩歌を吟じて 楽しみましょう
- 詩歌を吟じて美しいしょう
- 詩歌をものを見出してしましよう
- 詩歌を吟じて明るいしょう
- 郷土を築きましよう



新年度のごあいさつ

清吟堂吟友会出雲ブロック

会長 土江清真

新緑の野山にもえる今日この頃ですが、会員の皆様には益々ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は出雲ブロックの運営に多大のご支援・ご協力をいただき、お蔭様で活発な吟詠活動が展開出来ておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、去る四月七日、高浜コミセンに於いて平成三十年通常総会が開催され、平成二十九年度を振り返るとともに、新年度の事業計画・予算案等をご審議頂き、平成三十年度がスタートいたしました。

昨年度の出雲ブロック吟詠活動は、皆様方のご協力によりまして、大変充実した楽しい活動が有意義に展開出来たのではないかと思っております。吟士権大会では、かつてない多くの入賞者が出る等日頃の練習の成果を充分発揮いただくと共

に、楽しい吟詠活動への工夫なり取り組み、地域貢献のための各種イベントへの出演、他の文化団体との交流等積極的に対応いただき、地域における清吟堂吟友会出雲ブロックの知名度なり存在価値が一層高まってきたと思います。また、昨年は出雲ブロック創立四十周年という大きな節目の年でありまして、会員の結束力も一層強まると共にブロックの組織運営、事業運営、日頃の吟詠活動面においても、ある程度の基盤固めが出来た年であったと思います。

今年度は、創立四十周年という土台の上に立ち、次のステップへの更なる飛躍・発展に向け、再スタートを切る年でありますので気持ちを新たに吟詠活動に取り組んでいただくと共に会員相互の親睦と明るく楽しい地域社会づくりに少しでも寄与出来るように努めなければならぬと考えております。更なる吟友の輪の拡大と少しでも地域社会に貢献できる取り組みも実践していただくようお願いいたします。

また、今の詩吟教室は、当然のことながら吟詠上達のための練習であり、吟士権大会等のコンクールで入賞を目指す所謂ナンバーワン主義の練習に終始しがちですが、会員の高齢化・多様化に伴い、気楽な気持ちで真に詩吟を楽しみたい会員もいると思いますので、少々審査基準を外れていても「味のある詩吟」「心のある詩吟」等オンリーワンの詩吟練習も取り入れていいと思います。是非、各支部で指導者の先生を交え練習の在り方についても検討頂きたいと思えます。そして、引続きブロック運営上改めるものは積極的に見直すと共に新しいものも取り入れ、より魅力的で親しみやすい「出雲ブロック」を目指したいと思っておりますので会員の皆様のご提言なり、ご意見をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今年度一年間が皆様方にとりまして幸多き素晴らしい年となりますと共に当ブロックの躍進と繁栄を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

会員増強奨励表彰

平成三十年一月二十一日、出雲ブロック新年賀会において会員増強に尽力された四名が土江出雲ブロック会長より表彰を受けられました。あわせて、新規入会者の紹介がありました。

表彰された方

増田 登(たんぼぼ)
板垣 麗香(佐田)
佐藤 麗愛(宍道)
田畑 晴美(あじさい)

入会された方

伊藤 三夫(たんぼぼ)
安食留美子(佐田)
大谷 裕司(今市)
岡本 鞠子(宍道)
藤原 良介(宍道)
古川 由美(あじさい)

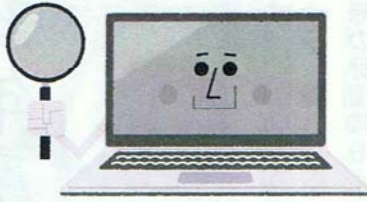
☆☆☆ホームページ開設のご案内☆☆☆

清吟堂吟友会出雲ブロックのホームページを開設しました。

アドレスは

<http://s-ginyukai-izumo.la.coocan.jp/>
(エルイー) です。

お気に入り登録して是非ご覧下さい。



平成三十年度通常総会開催

春たけなわの去る四月七日(土) 高浜コミュニティセンター

において、平成三十年度出雲ブロック通常総会が各支部の支部長並びに代議員の出席のもとに開催され、二十九年度の事業・決算報告と三十年度の事業計画・予算案が審議され、全会一致で承認されました。

はじめに土江会長より挨拶があり、二月に行った育成吟詠大会の終了をもって

二十九年度も皆さんのおかげで全ての行事を終えることが出来たと、お礼の言葉が述べられました。

ついで、会則により会長が議長となり議事に入り、平成二十九年度事業報告並びに収支決算報告が承認されました。この後引き続き平成三十年度の事業計画案

並びに収支予算案が承認されました。

この日は総会終了後、少壮吟士を目指して取組んでおられる松江ブロックの関口麗煌さんが来雲され、全国少壮吟詠家コンクール決勝大会に目出度く二回目の入賞を果たされたご報告とお礼のご挨拶を頂くと共に素晴らしい吟詠二吟を披露して頂きました。



平成30年度出雲ブロック行事予定

平成30年度出雲ブロック役員表

Table with 3 columns: 月日, 行事, 場所. Lists monthly events and venues from April to March.

Table with 3 columns: 役職名, 部長, 副部長. Lists board members and their roles.

平成29年度 育成吟詠出雲地区大会開かる

2月18日 斐川文化会館

30年2月18日、育成吟詠出雲地区大会が開催され、次の方々が入賞されました。

初段の部

入賞

- 古川由美子 (あじさい)
野田 初雄 (平田第一)
常松 悦子 (里方二)
三島 宏一 (今市)

二段の部

入賞

- 勝部恵美子 (六道)
勝部 朋子 (六道)
小中 寛 (斐川)

三段の部

入賞

- 大輝 孝志 (四絡)
山崎智恵美 (琴引第二)
服部 倫史 (斐川)
別木 由枝 (頓原)
西尾美和子 (あじさい)
佳吟賞
渡部 実 (平田第二)
伊藤 美雪 (あじさい)

四段の部

入賞

- 舟木恵津美 (神名火二)
倉橋 光浩 (JAいずも)
錦織 勇 (今市)
樋野 朝生 (斐川)
安田 経子 (四絡)
三成 淳夫 (稗原)
大國 裕子 (さつき)
高橋 充男 (清吟出雲)
坂本眞理子 (メタセ)
佳吟賞
寺本 進一 (蛇島)
花田百合子 (メタセ)
来間 重利 (平野第二)

五段の部

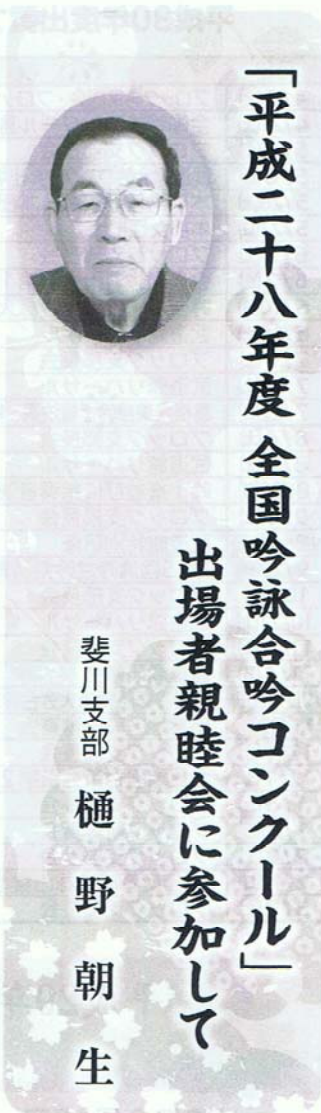
入賞

- 板垣 律子 (佐田)
石崎 弘美 (清吟出雲)
矢田 麗実 (メタセ)
常松 麗華 (平田第一)
原 唯風 (平田第三)
山本 樹風 (JAいずも)
坂根 真風 (神西)
佳吟賞
鐘推 義憲 (JAいずも)
飯谷 麗和 (西平田)
門脇 麗満 (富)

「平成二十八年度全国吟詠合吟コンクール」

出場者親睦会に参加して

斐川支部 樋野朝生



平成二十八年十月三十日に日本武道館で行われた「平成二十八年度全国吟詠合吟コンクール」に出場した島根県男子チームの親睦会が、平成二十九年九月三十日〜十月一日の一泊二日で、出場者三十五名中過半数の十八名が参加し、浜田市の「浜田ニューキャッスルホテル」に於いて開催されました。

コンクール出場からやや時間が経った事と、残念ながら入賞を逸した不本意な結果が影響したのか、今一步の参加者の感でしたが、地元浜田ブロック会長で本部役員の森川清芳副会長の参加を得、計十九名で熱のある親睦会となりました。

開始セレモニーでは、信条斉唱に続き、清吟堂吟友会前理事長で合吟の指導に当たって頂きながら、無念にもコンクール一か月前にお亡くなりになった故栗林

清典先生のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。続いて、世話人代表の松江ブロック荻田爾風氏、及び来賓森川清芳副会長の挨拶がありました。森川副会長は、一昨年五月五日の出雲大社での祈願祭から参加頂き、清吟堂吟友会を代表し、合吟コンクールのくじ引き抽選会でチーム出吟順のラッキーセブンを引き当てられた方でもあります。挨拶の中で、ラッキーセブンではあったが、早い番号は、必ずしも採点上ラッキーではないとの話もありました。

セレモニーの最後は、静聴吟「神集う」の後、コンクール出吟曲「後夜仏法僧鳥を聞く」を高らかに合吟し閉じました。

さて、懇親宴会に入る

と、日頃鍛えたノドと肺活量で「カラオケのど自慢大会」の様相ともなりました。が、テーブルの各所で、詩吟への思い・経験を語り合う立ち話の輪が出来、趣味を同じくする者同士の交流

お互いに切磋琢磨して吟力向上に努め、全国から集まる他府県の吟を聞く機会にチャレンジする事は、上達の為に必要な事と 생각합니다。

は楽しく、あつという間に二時間余りが過ぎ去りました。

当の私は、詩吟を始めて丁度七年が経ち、八年目を迎えています。詩吟らしい声質になるには、日頃練習を重ねた上で最低十年は掛かるなどという事を認識させられ、更に漢詩の意味、背景を知り詩情を感じて吟じるには、相当の年数と精進を要するだろうなどの思いなどを改めて感じているところです。





前向きで 生きる

富支部 中嶋 タイ子



今年には思わぬドカ雪で誰もが大変な思いや雪かきで困られた事だと思えます。雪が解ける頃にはどこからともなく、春の息吹を感じる様になり気持ちまでおちこんでいたのが少しづつ元気になって来ました。詩吟との出会いは、友達が詩吟を習っているとのことですぐに入会させていただきましと等々、声の出し方大へんでしたがもう六年が過ぎその二年後には詩舞も習い始め稽古も楽しく老体をいたわりながら努力しております。

が、私の人生二十代中ばから波乱万丈という大変な人生でした。その最後の出来事は平成二十八年三月に自宅を焼失した事です。詩吟の会員、教室の方々や昨年逝去されました、加谷先生は、本部、各支部長さん方々に声をかけられたとの事で御見舞や稽古着、舞台着一式までいただき、言葉では言えぬ位感謝と元気をいただき、ほんとうに有がとうございました。

ありのまま生きて来て、時には先も見えない事もずい分ありました。前向きで歩いてきた道です。知らずの内に人を傷つけた事もあったでしょう。反省

もしています。でも人生捨てたものじゃないですよ。自分でやりたいこと、出来ることを健康に気をつけて泣き笑いの道を歩いて行くと思っています。



竹田城跡を旅して

佐田支部 板垣 麗香

昨年十一月の末日、私は但馬にそびえる天空の城、国史跡の竹田城跡を訪れました。

息は切れ、必死で登った城跡からは、息を飲む様なながめが広がっていました。眼下に広がる山々、城下町の様子、又、当時は高くそびえ立っていたであろう天守を想像しながら、ここで繰り広げられた戦いに思いを馳せ、しばし佇みました。思い起こされるは兵どもの夢のあと...

電灯を片手に山道を登り、約四十分余りで展望台に着いて見ると、夜明けを待つ人達です。にいつぱいでした。

雲海に包まれた竹田城跡を見たいと、三家族六人で車一台に乗り込み、一泊二日の予定で出掛けました。車の中は遠足気分、おやつを食べながらのおしゃべりに花が咲き、アツという間に竹田の城下町へと到着しました。宿に入る前に竹田城跡に登って見ることにし標高三五三メートルの山頂に向いました。

途中の駐車場まで車で行き、その先は歩いて登ることとなりましたがさすがに

夜は美味しい酒と料理に満足し、明朝雲海の発生するのを願いながら眠りに就きました。

明朝五時に宿を出発し、竹田城跡全体を見渡せる朝来山の立雲峡に向いました。まだ真つ暗の中、懐中

やがて待っていた川霧が発生し城跡の石垣を雲海が包んで行きましたが、朝日に照らされた石垣は「虎臥城」の異名の通り虎が臥した様な姿を浮かび上げながら、又、空も薄いピンク色に染まり、まさに絶景でした。暗くて険しい山道を必死で登って来ただけの事はあったと、私達は感激の声を上げました。

すっかり明るくなった帰り道、回りには無数の奇石



や巨岩が点在する中、開花時はきつとすばらしいだろうと思われる老桜が群生しており、四季折々に美しい景色が見られるのだろうと

思いながら下山しました。竹田城跡への旅は大満足の日間でした。



平成二十九年夏期 吟道大学に参加して

御衣黄支部 杉原麗蓮



昨年七月、ご推薦を頂き吟道大学に参加いたしました。

講義室への入退時は「必ず一礼」から始まった厳しい日程の二日間は、生涯の思い出となりました。

漢詞家 石川忠久先生のご講義が非常に面白く、詩文の紐解き方が良く解りました。石川先生は高齢ですが、お元気で現在も東京大学の教壇に立たれます。半年以上経った今も、先生の気持ちの良い中国語が思い出されます。

夕食後の班別座談会では、普段の普及活動、練習

内容など思い切り意見を交わすことが出来たのも楽しかったです。

規律厳しい集団行動の中でのとり舟体操の稽古と本番も印象深い内容でした。

二日目の緊張の研修吟詠では、尺八演奏家河野正明先生から、厳しいご指導を受けました。真摯に受け止めます。研修吟詠の出番を待つ間、役員の先生とお話しする機会がありました。清吟堂吟友会のテキストをご覧になり「恵まれた指導を受けられる事に感謝しな

さい。」とおっしゃいます。

た。

最後は、仲良くなった皆様とのお別れが名残惜しく、再会を約束してのお別れとなりました。

一生に一度の参加資格です。叶うことなら、もう一度行きたいと思うような二日間でした。このような貴重な機会を与えて頂き、誠にありがとうございます。

指導者として、今後更



全国合吟コンクール出場候補者を推薦

来る十一月十日(土)に日本武道館で開催される「平成三十年全国合吟コンクール」に出場予定の清吟堂吟友会島根県女子チームメンバーとして県内各ブロックより四十一名の方が推薦されました。
出雲ブロックからの推薦者は次の九名の方々です。

- 曾田 麗翠 (平田第二)
- 安部 麗雨 (琴引第二)
- 三成 麗歳 (西平田)
- 吉川 麗京 (里方)
- 平井 麗翠 (里方)
- 勝部美穂子 (琴引)
- 錦織 千枝 (里方第二)
- 吉田 麗篤 (稗原)
- 佐藤 麗雪 (ラピタ)

短歌

斐川支部 小中 寛

赤い靴口風琴で吹きし我に 母との思い出語りし老女
父逝きし齢を超えつつ夜は深し 何を告ぐるか虎落の笛は
ツルツバゲおもてなしな背に染めてTシャツの群れ明けの街ゆく

あとがき

会員の皆様から、はじめて短歌・俳句を募集しましたが、残念ながら応募はゼロでした。

そのため、小中様に無理をお願いし、掲載する事が出来ました。次回は選者が

す。

出雲ブロックも創立四十年目となりました。現状に満足することなく、より魅力的で親しみやすい出雲ブロックを目指して、お互いに努力を惜しまず、歴史を積み重ねましょう。

(片寄・石崎)